

平成 21 年度

教育に関する事務の管理及び  
執行の状況の点検・評価

報告書

平成 22 年 3 月

出雲崎町教育委員会

## 目 次

頁

I	町の「教育計画」の策定について	1
II	教育委員の活動状況について	2
III	学校教育について	4
	1 「教員の研修」について	4
	2 「学力向上」について	5
	3 子どもの「規律」「安全安心」について	6
	4 「特別支援教育」について	7
	5 「総合学習」や「各種学校行事」について	8
	6 「信頼に応える教育」について	9
	7 「小中学校連携の充実」について	10
	8 「家庭の教育力向上」について	11
	9 「特色ある教育行政」について	12
IV	学校等の環境衛生について	13
V	学校その他の教育施設の管理について	14
VI	社会教育について	15
	1 社会教育・公民館事業について	15
	2 図書館事業について	19
	3 芸術・文化事業について	19
	4 社会体育について	20
VII	学識経験者からの総合評価	22
VIII	その他	24

はじめに

平成 19 年 3 月の中央教育審議会からの「緊急に必要とされる教育制度の改正について」の答申等に基づき、同年 6 月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）を含む、いわゆる教育三法の改正がなされた。

改正後の地教行法第 27 条の規定により、平成 20 年度から、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、毎年、教育委員会自らが点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することが義務づけられたので、本書をもって報告する。

記載内容は、教育委員会に付随する学校教育への支援や教育委員会の各種事業の内容を踏まえ、その「概要」と教育委員並びに教育課職員へのアンケート結果を基に「成果と課題」の形でまとめたものである。

なお、点検、評価にあたっては、点検等の形式、項目の規定はなく、各市町村教委独自に委ねられている。形式、項目の策定については、知識人を活用することと法規定されており、町では、一人の方（末尾掲載）をお願いし、ご指導いただいた。

## I 町の「教育計画」の策定について

### 〈概 要〉

町の教育計画は「第 4 次出雲崎町総合計画」を基本に、国の教育方針（学習指導要領）や当町の学校教育、社会教育、社会体育などの現状と課題を踏まえて、年次ごとに編成している。

国際化、情報化の進展とともに少子化、高齢化の中で「人間の時代」「心の時代」として各種教育は期待されている。教育の理念である「生きる力」を引き継ぎつつ新学習指導要領が公布された。町では、「感性豊かな教育のまちづくり」の実現に向けた中で学校教育の方針として「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」のバランスのとれた子どもの育成を目指す一方、子どもの問題行動や子どもを取り巻く社会の状況を鑑み、具体的な施策と実践を教育計画に盛り込んだ。

また、社会教育等の活動を通しながら、町民一人ひとりが生涯にわたって潤いと生きがいを持てるような教育活動を策定し推進していく必要がある。

（詳細：平成 21 年度「教育計画」）



## 〈成果と課題〉

教育委員からは、体系化された理念や施策は、現状に即したものになっており、目標は、十分達成されているとの評価が多くあった。また地域を生かした感性豊かな教育がなされており、そうした活動が施策に取り入れられているかとの点についても、おおむね目標を達成しているとの評価であった。

また、子ども達の地域学習、大人のニーズに応える努力が見られたとの意見もあった。

計画策定にあたっては、その都度、施策の見直しをしながら、地域に根ざした活動を一層推進する必要がある。

## Ⅱ 教育委員の活動状況について

### 〈概 要〉

- 定例会開催回数 6回
- 議案等件数 ・議案32件・報告9件・その他1件
- 臨時会開催回数 4回
- 町外視察研修 1回（H21・10・20 阿賀町）

教育委員会議は、定例会や臨時会等を適切に開催しながら、教育行政における重要事項や基本方針を決定している。

定例会、臨時会への教育委員、関係職員の出席状況については、毎回全員が出席し会議がもたれた。

教育委員は、法改正の趣旨である「自覚と責任」の意識をしながら、教育委員会事務の各種事業を支援、指導、点検してもらった。

教育委員の活動状況については、各委員に次の内容を設問し、考えを聞いた。

### 〈成果と課題〉

#### —設 問—

- Q 1 「会議（定例会・臨時会）の開催状況は、適切であると思いますか」
- A 1 「満足です」「無理なく、適切である」など目標は十分達成しているとの評価である。
- Q 2 「会議の審議内容は、適切であると思いますか」
- A 2 「現状に満足せず、改善の心がけも必要」との意見もあるが、ほとんどの委員から、適切に行われているとの評価である。
- Q 3 「資料が事前に配布されるなど、議事案件の把握が十分なされていると思いますか」

- A 3 「現状で良い」「なされている」など、ほとんどの委員から十分なされているとの評価である。
- Q 4 「地方分権の時代に、教育委員会の組織・指導体制を充実させていくとともに、その自主性・主体性が求められている。そのために必要な研修が実施されていると思いますか」
- A 4 「他の教育委員会への視察等により、研修がなされている」など、研修の実施状況は、十分達成されているとの評価である。
- Q 5 「広い視野に立ち、地域の実情に即した教育行政を推進していくために、教職員・保護者・地域住民の意見が反映されていると思いますか」
- A 5 「もっと意見を聞くことが必要である」「現状に満足せず、改善の努力が必要」との意見があり、目標はおおむね達成している」という評価である。
- Q 6 「特色ある教育予算編成など事務局の活動への支援・点検が適切になされているかと思いますが」
- A 6 「現状で良い」「どの分野でも際限はない中で、全く不十分という項目は、見当たらない」との意見もあり、目標は十分達成されているという評価である。
- Q 7 「審議会など各種委員会は適切に開催されていると思いますか」
- A 7 ほとんどの委員が、「適切である」として、目標は十分達成されているという評価である。
- Q 8 「教育委員として、学校行事等にどの程度関心を持って参加されていますか」
- A 8 「子どもの成長に関心がある」「新鮮さの中で、関心を持って参加させてもらっている」「特に子どもの実態、教師の指導力には関心が強い」との感想がある。
- Q 9 「保護者・地域住民への情報の公開や施策の説明は、適切に行われているかと思いますが」
- A 9 「様々な機会、場所で情報公開がなされていると思う」との意見もあり、目標は十分達成しているという評価である。

教育委員の活動状況の結果として、地域に即した教育行政を様々な関係者からの意見を聞きながら推し進めいくことが重要であることは、昨年の「点検・評価」結果から課題の一つであったが、今回も改めて認識された。保護者や地域住民に対して、機会あるごとに情報の発信を進めながら、自覚と責任をもって委員会活動を実施していきたい。

### Ⅲ 学校教育について

(教育委員会からの支援、学校の実施状況の把握から点検を中心として整理したもの)

#### 1 「教員の研修」について

##### 〈概要〉

教育委員会の重点施策の「教員研修の充実」については、教育成果を上げるため、長岡市教育センター指導主事を招へいし、「わかる授業の充実」や「子どもの学力向上」「教員の指導力向上」のため、各学校及び小中合同研修として、計5回計画的に実施した。

- ・第1回(6月26日/金) 内容 知育・徳育・体育の取組状況と質疑応答  
国語・理科の研究授業
- ・第2回(8月25日/火) 内容 特別支援をテーマにした研修  
不登校対策と事例研修
- ・第3回(11月4日/水) 内容 国語の授業参観  
知育・徳育・体育の分科会別協議
- ・第4回(11月18日/木) 内容 道徳の授業参観  
知育・徳育・体育の分科会別協議
- ・第5回(11月27日/金) 内容 英語の授業参観

##### 〈成果と課題〉

研修は小・中学校連携の取組として、上記のように実施され、教員の指導力は、授業及び教育全般に反映された。

教育委員からは、「充実性は出ている」「考えられる支援体制は、ある程度進んできている」のほか、「現状に満足せず、改善の心がけを忘れないようにしたい」の意見もあるが、目標は十分達成しているとの評価である。



町教員の授業研究会

教育行政における課題について、教育委員会職員も、「指導力向上のための研修等は、適切に実施されているもの」と認識している。

子どもの学力や「生きる力」の育成につながることを願い、今後とも教育委員会として、教員向けの各種研修に支援していきたい。

## 2 「学力向上」について

### 〈概要〉

確かな学力は、子ども達の「生きる力」の基となるものである。「わかる授業」を通して、児童生徒の学ぶ意欲を高め、学力の向上が図られるよう、様々な取組がなされてきた。

各学校で授業研究や学習指導法の工夫改善がなされ、特に音読や朝読書により、文字への抵抗感を小さくし、読解力の向上に努めた。また、全国学力テストやNRTの分析を行い、授業改善に役立てた。

教育委員会では、「外国人による英語学習指導（TT：小中学校）」の継続、英語及び数学に「教員補助員」を継続して、「わかる授業」等きめ細かな指導ができる体制を図った。

### 〈成果と課題〉

各学校では、研修会を通して指導方法を工夫するなど確かな学力の定着、向上に努めているところであるが、教育委員からは子どもたちの「学力向上」「学ぶ意欲」や教育委員会からの支援について、次の評価がある。

- ・「小学校では、功を奏するかは現状では見えにくいですが、子どもの学習状況を見る限りにおいては、全体的に明るく学んでいるように思える」
- ・「中学校では、家庭での学習習慣の充実が、必要ではないだろうかと感じる」

教育委員会職員の認識も「小学校・中学校とも、落ち着いて、明るく授業に取り組んでいるように思える」「教育委員会として、ALT、教員補助員等の支援を実施しているが、なかなか学力向上に繋がらない部分もあり、今後の見直しも必要。しかし全体的には、ほぼ達成している」と評価している。

学校では、各種学力テストの結果を分析しながら教育指導に反映しており、そうした取組で、年々、全国・県平均同等、もしくは、同等以上のレベルにきている。今後、学校と教育委員会が連携しながら、学力向上に努めていきたい。



外国人による英語の授業

### 3 子どもの「規律」「安心安全」について

#### (1) 安全教育

##### 〈概要〉

現在、小・中学校の校内での「いじめ」については、ほとんどないが、不登校や問題行動は多少起きている。学校においては、いじめ撲滅運動のための作文や校内集会を実施、お互いの人権を守ることの大切さから一層の啓発活動（研修：「CAP」）などを実施している。

また、パトロールや防災無線、学校での訓練（緊急対応マニュアル）などによる不審者対応、施設整備（遊具の点検や安全防火シャッターなど）、AED設置などにより、子どもたちの安心、安全に努めている。

携帯電話については、非行や問題行動の未然防止の観点から、適正な使用の指導と学校に持ち込まないように、教育委員会から学校長へ文書で通知・指導を行った。



登校時の交通安全指導



いじめ撲滅集会（中学校）

小学6年生も参加

##### 〈成果と課題〉

教育委員からは、次のような評価がある。

- ・「きめ細かな教育がなされている」
- ・「小・中学校共に安全教育には、十分力を注いでいる」
- ・「学校、保護者、地域の連携を重視して生徒を温かく見守る努力を常に持ちたい」

教育委員会職員の認識においては、

- ・「小・中連携でいじめ撲滅集会を行ったり、一人ひとりが意識をし、学校全体で取り組んでいる」と評価している。

以上のことから、安全教育に向けて具体的な取組がなされており、目標を達成しているものと考えるが、常日頃から、緊張感をもって対応していきたい。

## (2) 防災教育

### 〈概要〉

学校における防災教育と災害発生に備えた安全管理への対応については、校内巡視や課題別に計画的な避難訓練、緊急対応マニュアルの作成、施設設備・遊具の安全点検の実施、AEDの設置などを行っている。また、個人情報の管理については、コンピュータのUSBメモリーの金庫管理の実施、不審者対策については、学校施設に鍵の施錠の徹底を図っている。

### 〈成果と課題〉

学校における不審者対策や、施設設備の安全点検により、子ども達が安心、安全に学校生活を送れることが、極めて大切である。

教育委員からは、「2度の地震で意識は高いと思われる」との意見があるほか、「緊急時に機能が発揮できるよう、改善に努力が必要」の意見もある。

教育委員会職員自らの認識では、

・「緊急対応マニュアルはあるが、緊急時において作業手順どおりに対応できるかは、不安である」「各機関等の連携が重要であることから、日頃の訓練，一人ひとりの認識が必要」の評価もある。

このことから、防災教育は、緊急時の不安を持ちながらも、おおむね目標は達成されているとの評価であり、今後も、校長だよりを通して地域住民へのアピールの徹底を図りたい。

## 4 「特別支援教育」について

### 〈概要〉

障害を持ち、特別に支援を要する子どもたちへの教育は、一層きめ細やかで心に寄り添う指導及び保護者の協力を得ての指導が肝要である。

学校の指導体制は、コーディネーターを中心に情報を共有し、全校体制で指導に当たっている。

介助員の配置、また適正就学指導委員会や医療機関、保育園、特別支援学校等との関係機関との連携を取り、適切な教育の推進を図っている。

### 〈成果と課題〉

当然のこととして、特別支援教育を受ける子ども達にも、適切かつ有効的な教育を保障しなければならない。

教育委員からは、次の評価である。

- ・「介助員の配置、小中学校での特別支援学級の設置等、充実していると思う」
- ・「十分されている。周りの子ども達が障害を理解し、いじめの対象にならないように・・・」
- ・「学校及び行政からの支援は、十分配慮されていると思う。特に特別支援教育の充実は、細かな指導を要するだけに心配りが重要である。」
- ・「常に弱者を温かく見守る努力を忘れないように心がけたい」  
などの意見があり、目標は十分達成されているとの感想である。  
教育委員会職員の認識でも、「学校の規模からすれば、介助員の配置数は、おおむね達成されていると思う」と評価しており、さらに指導体制の充実を図るとともに、保護者の期待に応えていかなければならない。

## 5 「総合学習」や「各種学校行事」について

### 〈概要〉

小中学校では「総合学習」において、「豊かな心をはぐくむ体験活動」や「地域に学ぶ活動」は、一貫性のある指導計画の中で実施されている。

指導計画では、子ども達の学びニーズに沿った中で、コーディネーターや地域人を活用し、年間を通して様々な体験をさせて、それを学習に関連付けている。

また、オープンスクールやスポーツ、文化面の「各種学校行事」においては、子ども達の発達段階に即した創造的な編成がなされ、保護者・地域に対して貴重な公開の場となっている。



小学校総合学習（稲刈り）



中学校総合学習（福祉擬似体験）

## 〈成果と課題〉

「総合学習」について、教育委員からは「地域環境や地域人の人材活用をフルに生かした学校教育が展開されている」「年間を通して計画的に出来ている」「地域の学校支援体制が整備され、一層充実した」と評価している。

教育委員会職員も「体験活動、地域行事の参加等についての目標は、十分達成されている」と認識している。

実際には、小学校では地産地消の関係から芋掘りや稲刈り体験、中学校では、職場訪問や福祉体験活動等を総合学習として学んでいる。

「各種学校行事」について、教育委員からは「極めて充実している」「小、中の学校面、生徒面の連携がとても良い」「子ども達の生き生きとした姿が見られる」の評価がある。教育委員会職員も「目標は、十分達成されている」と認識しているが、教育委員からは一方で、「オープンスクール後の保護者会にもう少し参加があっても良いと思う」「今後とも、現状に満足せず、改善の気持ちを忘れずれないように」の評価がある。

## 6 「信頼に応える教育」について

### 〈概要〉

・町内小中学校のグランドデザインは、各校の経営方針が明確に示され、今年度の取組と方策が重点的に整備され、系統だった概要になっているかが、重要である。また、教育委員会としても目指す学校像や年度の取組、方策を把握しておかなければならない。学校では評価を基に検討、改善を進めるが、教育委員会としてもその評価を活かしながら支援を進め、地域の信頼を得ていかなければならない。

・新教育課程への移行措置における校内対応や、電子黒板の導入、ICT化、エコ教育等の積極的な推進も行う必要がある。

・学校評価については、設定された学校運営目標に対して、その達成状況を把握・検証し、結果を公表することによって、各学校が自らの教育活動に責任を持ち、ひいては教育水準の向上につなげることにねらいがある。また、数値的なデータや外部評価等も含めて、より客観的な評価を実施し、取組の改善が図られることが、大切である。

・教職員の非違行為防止については、教育委員会もあらゆる機会を通して指示・伝達を行っている。

・学校からの情報公開も、保護者や地域住民に適切に行わなければならない。

## 〈成果と課題〉

・整備され系統だったグランドデザインについて、教育委員の評価は、「おおむね目標を達成している」。そして、「小学校は1～6年と幅広いため、半分ずつ取組方策が違って良い」。教育委員会職員の認識も「見直しがされて、明確化された」の評価である。グランドデザインについては、細かな内容をいかに説明、伝達していくか、学校はその機会をどのようにとるか、保護者や地域、行政に向けて検討する必要がある。

・新教育課程の移行措置に対する対応や、電子黒板などの情報機器の導入等の取組については、教育委員の評価は、「対応が早い」「時代の動向に積極的に対応した」。一方「合理的な方法と心のこもった方法を使い分けて教育してほしい」と貴重な要望がある。教育委員会職員は、「十分達成している。活用の仕方が今後の課題」「補助金を活用し、情報機器設備は整備したが、実際にどう授業に生かされるかが、今後の課題」と認識している。

・「学校評価」については、「良く評価されている」一方で、「現状に満足せず、改善の気持ちを忘れないように」「学校評価は、細項目を設定し、子ども、保護者、教員の立場でよく捉えている。それをどう活用するかが問題である」と指摘している。教育委員会職員も「評価し、改善が図られている」と認識している。

・教職員の非違行為防止の指示について、教育委員の評価は、「十分なされている」「その都度、タイムリーに指導がなされている」。一方「場合によっては、詳しく知らせてほしい」との意見がある。教育委員会職員からは、「指示の部分では、十分とは言えない」との反省がある。

・地域への情報公開について、教育委員からは、「十分されている」「学校だより等により、適切に行われている」の評価があるが、一方で「現状に満足せず、改善に心がけてください」の意見もある。教育委員会職員も「校長・保健室・学校だより等で、適切に行われている」の認識である。今後も情報公開を適切に実施していくことが、信頼される学校経営で最も重要なことである。

「信頼ある教育」の構築には、日々の謙虚な気持ちでの取組が必要であるが、「信頼」はあることを契機に一瞬にして崩れ去るのも早い。教育に携わる関係者の不断の精励が「信頼ある教育」の礎である。

## 7 「小中学校連携の充実」について

### 〈概要〉

小中連携の教育は、町教育委員会の大きな目標である。ぜひ充実し効果を得たい。当町は小中各1校により、小中が連携し9ヵ年を見通した教育が図られ

やすい状況にある。両校の教職員により理解され、連携が有効にはたらき、共通化や相互支援が適切に行われることで大きな教育効果をもたらす。

現在、指導主事を計画的に招いての合同研修会の開催、中学校教員が小学校に出向いて行う授業の実施、小中学生の交流など、年間計画に沿って着実な効果を得ている。



外国語指導員による小学校での授業

### 〈成果と課題〉

教育委員の評価として、「学校や行政の意欲の結果、緊密な連携が図られている」「先生間もそうですが、児童生徒間でも良くできている」の一方、「教育委員として、さらに実情を把握していきたい」「9年間生徒が同じ顔ぶれのため、マンネリ化しないで、向上する努力をお願いしたい」があげられている。

教育委員会職員も「小中各1校ということで、連携は十分達成されている」の認識がある。

小、中学校では、それぞれの学習指導要領に基づいて独自の学校運営が、展開される。小中連携では、交流の中でこの目標や課題について、教員が共通の理解を得ることが大切であり、その状況を地域住民に情報提供とすることが必要である。そのため、連携の取れた学校運営が行われるよう教育委員会としても努めたい。

## 8 「家庭の教育力向上」について

### 〈概要〉

小・中学校においては、家庭での基本的な生活習慣の指導を重視している。その家庭学習のあり方については、発達段階に応じて手立てを講じている。

「早寝、早起き、朝ご飯、読書に手伝い」のキャチフレーズのもと、「自学」のすすめや家庭学習の定着に向けて、学校、保護者、行政の連携が緊密に機能して実施している。

「家庭の教育力向上」の一環として、教育委員会の立場から小学校2回、中学校1回「家庭教育学級」の開催の支援をしている。

また、小学校のオープンスクールなど保護者の集会時を利用して、ワークショップ形式で家庭教育の啓発を図った。

## 〈成果と課題〉

教育委員からは、「保護者一人ひとりの自覚にかかっている。我が子を思う親の実践に期待したい」の一方、「講話後、家庭でどう話がされているか、その実態の状況を確認することも大切」「今まさに家庭教育の重要性が問われている時代ですので、保護者も十分努力し、先生方からもアドバイスを願う」の意見がある。

教育委員会職員も「保護者を対象に講演会を企画しても、参加者は少なく、保護者の意識を変えることは非常に難しいと感じている。今後の改善が必要」の認識があり、このことは、大きな課題でもある。

子どもの様々な力の育成は、学校だけの教育に依ることはできない。規則正しい生活や家庭での学習習慣などは、家庭や親の考え方が子どもに大きく左右する。また、講演や話し合いが子どもにとって直接、間接的に効果があるか否かは子ども自身と親の意識にかかるとは、今後とも教育委員会としての確、計画的にこうした機会を設け、家庭学習の大切さを伝えていきたい。

## 9 「特色ある教育行政」について

### 〈概 要〉

地域の特性を生かした特色ある教育行政について、小中連携教育の推進や長岡市教育センターから指導主事を招いての教員指導者研修などは、前述のとおりであるが、さらに次のような特徴的な取組も計画・実施した。

○個別ケース検討会議・・・巡回指導により、町子育て支援協議会の個別検討会議で情報交換を実施する。

○未来の夢こども体験講演会・・・夢や希望、誇りをもって豊かな人生設計の一助にする。

(21年度ピーター・フランクル氏)

○ほなみが丘整備・・・学校林の環境整備をしながら自然に親しむ。

○学校支援地域本部事業・・・地域と住民で学校を支えながら学校の特色を出す。

○スクールエコ運動・・・空き缶・廃油・ペットボトル及びアルミ缶の回収、廃油精製燃料利用のスクールバス運行

○俳句活動・・・感性を育てる体験と文筆活動

○郷土に学ぶ総合学習・・・良寛等町の文化・歴史を知り、町内の職場体験を通して、自分の将来を考える。

○良寛さんの心書道展・・・書道を通して、聖僧良寛の心に触れる。

- 小中学校入学祝金・・・子育て世帯への支援と若い家庭世帯の定住促進を目指す。
- 学校給食に地産地消・・・食育教育として、地産品を使った料理で地産地消費への理解、郷土への愛着を持たせる。
- 奨学金貸与基金事業・・・修学意欲がありながら、経済的な理由で修学困難の者に奨学金を貸与する。



未来の夢こども体験講演会



ボランティアによる小学校俳句活動

### 〈成果と課題〉

新潟県教育委員会の学校教育の重点の中に「地域に信頼される特色ある学校づくりの推進」がある。町教育委員会も小・中学校と連携を取り、学校グランドデザインの中に明示し、地域の人達の協力を得ながら、特色ある教育活動の推進を図った。

教育委員の評価は、「幅広い実践に敬服する」「十分、成果が出ている」「教育環境整備とともに特色ある学校づくりのために、諸事業を行っている」のほか、「現状に満足せず、さらなる改善を願う」の要望がある。

## IV 学校等の環境衛生について

### 〈概要〉

学校環境衛生定期検査については、学校薬剤師から薬品等管理状況、学校給食衛生管理、飲料水及び排水管理、照度及び照明環境等を定期的に検査してもらい、その結果の指導、助言を受けている。

また、今年度は、新型インフルエンザが全国的に大流行し、当町でも一部学年閉鎖があったが、小中学校、教育委員会、関係機関で連携をとりながら、集団感染の防止に努めた。

## 〈成果と課題〉

教育委員の評価も「十分なされている」「定期検査が着実に進められているものとする」の一方、「現状に満足せず、さらなる改善を願う」の声がある。

当町は、環境衛生に類する具体的な事故や事例は、発生していないものの、今後とも、学校環境衛生活動の一層の徹底を図っていく。

## V 学校その他の教育施設の管理について

### 〈概要〉

町教育委員会が所管する学校、教育施設等に係る営繕関係は、下記のとおりである。

[管理施設]	・町立小学校 1校	・町立中学校 1校
	・教育施設（中央公民館等）	9施設
	・その他（教職員住宅）	4棟

#### [文化財関係]

・国登録有形文化財（割烹みよやなど）	4件
・県指定文化財（木造薬師如来坐像など）	5件
・町指定文化財（薬師寺山門など）	30件

#### [営繕関係]

（平成21年度工事請負費分）

・小学校遊具移設修繕工事	735千円
・小学校体育館トイレ改修工事	735千円
・小学校校内LAN設備工事	918千円
・中央公民館非常用発電機設置工事	6,825千円
・海岸公民館冷房設備取替工事	13,125千円
・町民体育館トレーニングルーム整備工事	7,035千円
・町民野球場鉄製ドア取替工事	1,134千円
・屋内ゲートボール場コート補修工事	1,680千円
・北国街道妻入り会館駐車場舗装工事	515千円

## 〈成果と課題〉

教育施設の営繕関係については、老朽化や破損などにより、改修、補修しなければならない箇所を順次、修繕を行った。そして各教育施設の整備、改善により、学習環境の向上や安全で快適な利用が図られるようになったことは貴重であった。

教育委員の評価は、「十分されている」「限られた予算の中で実行していること

は理解する」。教育委員会職員は、「施設の改善は行っているが、十分とは言えない」の認識がある。

不審者対策について、教育委員は、「不安はあるが、十分されている」「特に小学校の施設などがとられている」「少し不十分な気がする。中学校の施設に施設の対策を」の評価である。

## VI 社会教育について

### 1 社会教育・公民館について

#### 〈概要〉

町民一人ひとりが自己を磨き、豊かな人生を送るため、自己の充実・啓発が一層言われている中で、地域住民の学習意欲が高まっている。その要求を把握しながら、様々な内容の講座、教室を実施した。

まず、幼児から高齢者まで各世代を対象には、めばえ教室（延べ131組参加）・出雲崎ッズ教室（延べ51名参加）・出雲崎総合大学（延べ290名参加）を開催し、多くの参加者が受講し、好評であった。

趣味的な学習講座としては、パソコン教室（延べ128名参加）、料理教室（延べ33名参加）、絵手紙教室（延べ21名参加）、を開催し、それぞれの学習効果を上げた。

その他の事業としては、英会話教室（保育園年中・年長児対象毎月2回開催）、ガーデニング教室（延べ124名参加）、良寛さま朗読ライブ（延べ130名来場）、生涯学習フェスティバル（延べ500名来場）、筑波大学日本画展（延べ250名来場）を実施した。また、生涯学習カレンダーも作製・配布しながら、年間の行事活動の周知を図った。



楽しく発表された生涯学習フェスティバル



筑波大学日本画展風景

## 〈成果と課題〉

町の地域、特性を生かした多様な学習講座を開催し、各世代に学習機会を効果的に提供しており、生きがいのある生活の支援に貢献してきた。

教育委員からは、「十分なされている」「各年齢層に着実に浸透している」の一方、「系統だっけてきているが、以前から青年、高校生年代の活動が鈍い」「現状に満足せず、さらなる改善を願う」との意見がある。

教育委員会職員からは、「アンケート等の実施により、ニーズに対応するよう  
に行っているが、20代～50代層が参加しやすい仕組みが少なく、  
今後は、それらに取り組む仕組みを作る必要がある」「幼児から高齢者まで、各種教室を幅広く企画しているが、若年層の積極的な参加ができるような企画が必要」の認識がある。

今年度については、事業終了後に、参加者から次のようなアンケートを実施し、感想を得た。

今後は、十分に住民の声を反映させながら、ニーズにあった多彩な講座・教室を開催していきたい。

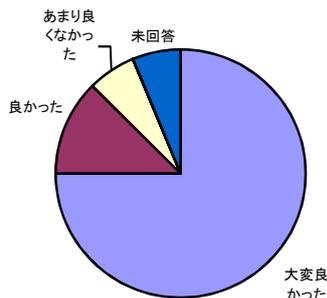
# H21 ガーデニング教室・アンケート結果

平成21年11月21日実施

アンケート回答者:16名

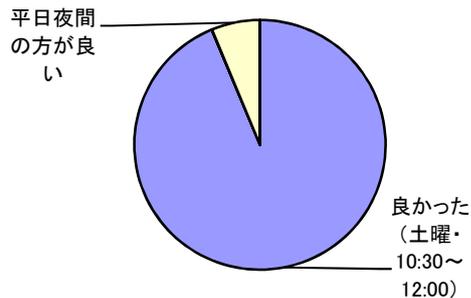
## (1) 講座の内容について

大変良かった	12
良かった	2
あまり良くなかった	1
悪かった	
どちらとも言えない	
その他	
未回答	1



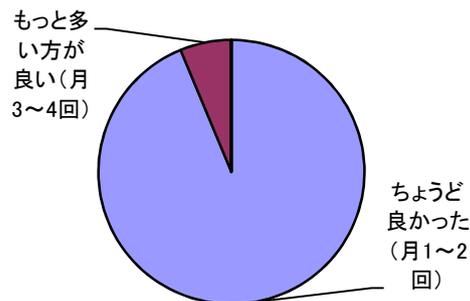
## (2) 講座の日程について

良かった(土曜・10:30~12:00)	15
平日昼間の方が良い	
平日夜間の方が良い	1 (19時頃)
その他	



## (3) 講座の回数について

ちょうど良かった(月1~2回)	15
もっと多い方が良い(月3~4回)	1
もっと少ない方が良い(2ヶ月に1回)	
その他	

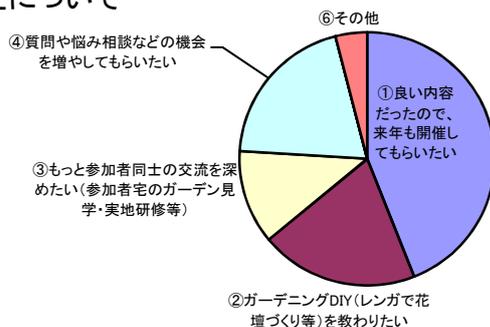


## (4) 今後希望することについて(複数回答可)

①良い内容だったので、来年も開催してもらいたい	11
②ガーデニングDIY(レンガで花壇づくり等)を教わりたい	5
③もっと参加者同士の交流を深めたい(参加者宅のガーデン見学・実地研修)	3
④質問や悩み相談などの機会を増やしてもらいたい	5
⑤毎回の参加は難しいので、興味のある回のみ参加したい	
⑥その他	1

→ 大変勉強になりました。  
場所が少ないので少し休みたいと思いました。

## 今後希望することについて



# 平成21年度出雲崎総合大学アンケート結果

回答率75%(21人/28人)

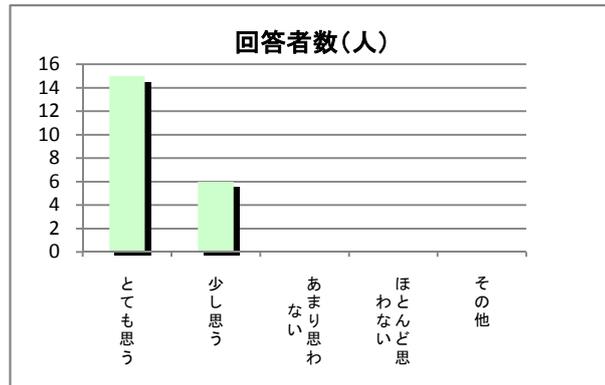
## I 総合大学講座を受講した感想についてお聞きます。

### 1. 総合大学全体をとおして楽しく学習できましたか。

回答	回答者数(人)
とても思う	15
少し思う	6
あまり思わない	0
ほとんど思わない	0
その他	0

#### ご意見

・聴講させて頂く回数は少なかったのですが、毎回興味深く拝聴させていただき

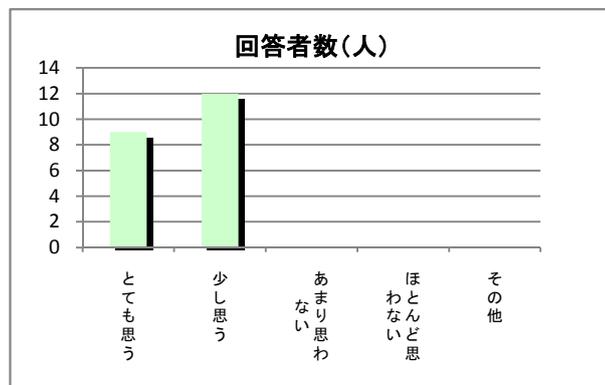


### 2. 総合大学全体をとおして知識・技能が身につきましたか。

回答	回答者数(人)
とても思う	9
少し思う	12
あまり思わない	0
ほとんど思わない	0
その他	0

#### ご意見

・歴史的な展開に関心が高まりました。

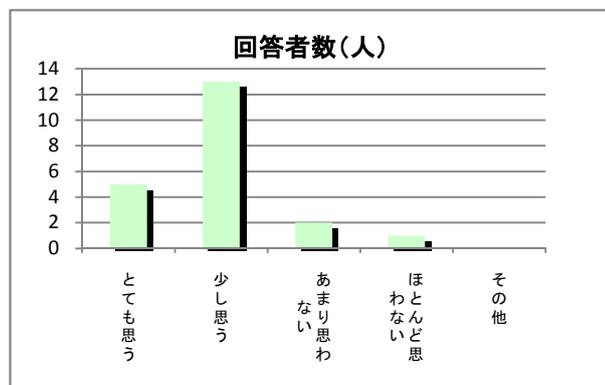


### 3. 総合大学全体をとおして新しい友達ことができましたか。

回答	回答者数(人)
とても思う	5
少し思う	13
あまり思わない	2
ほとんど思わない	1
その他	0

#### ご意見

・残念ながら自らの積極性が劣りました。



### 4. これから「やってみたい」「やってほしい」講座等がありましたらお聞かせください。

- ・出来ましたら小木の城方面の事も取り上げて頂ければと思って居ます。
- ・古文書が少しでも読めるようになりたいと思っています。
- ・宗派にとらわれない真理の話などたまに中に入れてもいいと思う。
- ・日常生活の中に潜んでいる小さな危険などについて。例 食生活、運動、経済
- ・文化講座の中で(コンニャク作り)良かったと思います。もし、地元の食材料理を取り入れられますようでしたら豆腐作りを今一度教わりたいと思って居ります。
- ・美術館めぐり、近くのお寺神社めぐり、(例えば国上寺、妙法寺等) ・植物園 ・自然科学
- ・人体のお話、ジョギングや運動、老化 ・小木の城についてもっとくわしく知りたい。
- ・参加者全員で半日(13:00~15:30)位の時間をレクリエーション的なことでコミュニケーションもできるのではと考えます。
- ・出雲崎は歴史的にも意義深い町だと思います。町の歴史探訪などお願いします。

## 2 図書館事業について

### 〈概要〉

図書館事業では、子ども達や年配の人たちまで、多くの町民の方から、本に親しんでもらうため、様々なサービスの提供を実施した。まず、幼児への絵本贈呈や小学校児童・保護者に対する親子文庫の開設をはじめ、電算化による図書貸し出し業務の簡素化、公民館だよりでの新刊図書の案内により、本のある楽しさの実感を図った。



ブックスタート事業

### 〈成果と課題〉

教育委員からは、「新刊図書の紹介がありがたい」のほか、「駅前公民館がなくなったので、なかなか借りづらい」「新年度の活動に期待したい」の声がある。

教育委員会職員からは、「一般的なニーズを調査し、事業を行っているが、今後も、ニーズ調査を行い、町民に合った事業を行っていかなければならない」「開架図書のレイアウト等を工夫し、より多くの方が本を手に取りやすい環境整備が必要」「住民からリクエストを受け、ニーズの高い図書を購入することで、内容の充実を図っている」の認識がある。

## 3 芸術・文化について

### 〈概要〉

近年の高齢社会の進展や余暇時間の増加により、町民の芸術・文化に対する関心が高まっている。町では、町民の芸術・文化活動を積極的に支援し、学習の機会を提供していくとともに、自主活動の母体である公民館文化サークル協議会をサポートし、各団体の育成を図っている。

そして、町特有の自然風土や歴史を伝える景観や文化財の保存管理・活用を通して、「歴史と文化の町づくり」を進めている。

### 〈成果と課題〉

教育委員からは、「十分されている」「活動的で来町者の反応はいい」のほか、「文化財の保存管理のレベルをもう少しアップしたら」との声がある。教育委員会職員の認識は、「協議会、サークルの活動に対してのバックアップをより強くし、自主的な活動をやりやすい体制、発表の場（フェスティバル）を更に盛り上げるような体制づくりが必要」「文化財をより理解できる体制づくりが必要」

「積極的、主体的に活動する人材の更なる育成が必要」「自然風土、歴史景観、文化財等に関心のある方を結びつけ、ネットワークを構築することで、魅力ある町づくりを推し進めるができる」の感想である。

このような中で、「文化財調査審議会」の町内文化財パトロールや自主的な県外視察研修は、文化財の保存や委員の自覚の表れと評価できる。

## 4 社会体育について

### 〈概要〉

町民の健康増進と地域の融和を図ることを目的に、いろいろなスポーツ大会や教室を実施した。主な大会は、町民バレーボール大会（8チーム参加）、生涯スポーツフェスティバル及び町内ゲートボール大会（328名参加）、町民ウォーキング大会（23名参加）、ソフトボール大会（7チーム参加）、バドミントン大会（10チーム参加）、ソフトバレーボール大会（9チーム参加）。

またスポーツ教室の主なものは、わんぱく水泳教室（23名参加）、さわやかスポーツ教室（32名参加）、サッカー、バスケットボールやバレーボールでの小学生スポーツチャレンジ教室（72名参加）、ヨガ教室（35名参加）等を実施し、新たに、ファミリースキー・スノーボードも開催し、37名の参加を得た。

また今年度は、45年ぶりに新潟県で「トキめき新潟国体」が開催された。当町では、大会のシンボルとなる「炬火（きょか）」を国体の開会式に集火するため、出雲崎中学校体育祭の開催時に、出雲崎の炬火として採火式を実施した。

当日は、小学校児童と中学校生徒、地域住民で火おこしを行い、有意気な経験ができた。その他、町民体育館トレーニング室の増改築を行い、新規の運動機器を配備し、町民の健康増進・体力づくりのための環境整備を図った。



ソフトバレーボール大会



トキめき国体記念の採火式風景  
(中学校)



ファミリースキー・ボードの集い



リニューアルした町民体育館  
トレーニングルーム

### 〈成果と課題〉

例年、町民の健康増進と地域の融和を目的に、各種スポーツ大会や教室を開催している。開催のPRや住民参加状況、住民の声を反映しているか、施設的环境美化、整備状況はよいかの教育委員の評価は、「十分なされている」「高齢者の体操教室は、とても良い」の声はあるが、「全体的にPR不足」「参加の状況、内容に一工夫持ちたい」「参加人数にやや不安を感じる」「アンケート調査を実施しては」「小さい集落の若い人達の連携があった方がよい」など、改善を要する声が多くあった。

教育委員会職員の認識は、「公民館だよりや町ホームページ等で参加の呼び掛けを行っている」などの評価であるが、一方では「決まった人達の参加により、もっと各年齢層、各地域に参加をさせる工夫をしたい」「高齢化により、地域スポーツクラブの参加がむずかしい」の感想がある。

今年度は、こうした指摘を改善するため、以下のように事業参加者に対してアンケートを実施し、次年度の事業のあり方についての参考とした。

最近の健康ブームにより、仲間とスポーツを楽しむ、体を動かす楽しさが見直されてきている。そうした状況の中で、トレーニング室の運動機器の新規整備を図ったことで、多くの人達が施設を利用し、町全体で健康増進・体力づくりの機運を盛り上げていきたい。

## VII 学識経験者からの総合評価

元長岡市立北中学校長 山崎 十五郎

時代の進展とともに社会状況が大きく変化していく中で、町教育委員会は教育の不易と流行を見定め、第4次出雲崎町総合計画で定めた「感性豊かな教育のまちづくり」の実現に向けた教育行政の推進に努めている。国の法改正により、教育委員会が自らの教育行政に関する点検・評価を義務づけられてから2年目を迎える。住民に信頼される教育行政の推進のために、教育委員会が自主性・主体性を発揮して学校・家庭・地域間の連携を効果的に進めていこうとする姿勢が、この報告書から強く窺える。

まず、町の「教育計画」の策定に当たっては、数多くの史跡と名勝地に富む出雲崎町の文化と伝統を大切に、学校教育、社会教育、社会体育にわたり学習者のニーズに応えた特色ある施策が立てられている。毎年、丁寧な見直しがなされ、特に今年度「町の教育のアウトライン」にそれぞれの分野で核となる取組が明示されていることは評価に値する。

学校教育については、子どもたちの「生きる力」の基となる確かな学力の定着を図る取組が重要である。各学校では全国学力状況調査やNRTの分析を行い、積極的に指導改善に努めている。

また、教育委員会としては、外部から指導主事を招聘するなどして、教員研修の充実を図るとともに町独自に「外国人による英語学習指導」の継続、教員補助員（英語・数学）の配置等、力強い支援体制を取っている。その評価は着実に上がってきている。

これらの取組がより大きな成果を上げていくためには、ヴィジョンに基づいた目標の焦点化と確かな検証、学校と行政サイドとの共有性が一層求められることになる。

町教育委員会の大きな目標の一つに、小中連携教育がある。当町が小・中各1校により、お互いに連携し9ヶ年を見通した教育が図られやすいという地域状況に即したものである。先に取り上げた教員研修や授業改善においても、独自の態勢が定着してきている。

これから小中連携教育は、枠組みからその内容に関心が移り、成果が問われる段階に入っていくと思われる。一例を挙げれば、新学習指導要領では小学校において、英語活動が義務化される。出前授業を通して、教師のみならず児童

生徒の交流も考えられる。何よりも、子どもたちにとって体系化された教材を学ぶことにより、本来の学習意欲が喚起されていく。

しかし、教育委員の方から、生徒は9年間同じ顔ぶれのため向上心が萎えるのではないかと懸念の声も聞かれる。今後、町外や地域性の異なる他校との学校間交流も視野に入れていく必要がある。

特色ある教育行政として「未来の夢子ども体験講演会」や聖僧良寛生誕の地にふさわしい郷土学習など継続して行ってほしい事業も数多くある。

社会教育については、生涯学習の観点から町民一人ひとりがいつでもどこでも誰でも、好きな学習ができるというコンセプトで各世代に応じた配慮がなされている。

全体を通して、ソフト・ハードの両面からきめ細かな点検・評価がなされ、保護者、地域住民の信頼を得られる教育行政が行われている。この報告書の中には、これからの町教育行政を推進していく上で、貴重なヒントとなる提言が随所に含まれている。是非とも次年度の施策に生かしていただき、将来的に出雲崎方式なるものが、生み出されるよう町をあげて、取り組む態勢づくりを期待している。

## VIII その他

今回の評価の視点及び評価項目（文部科学省所管：教育再生会議の素案）について、参考に列記した。

- 1 [教育委員の活動状況]
  - ・教育委員会の活動状況 ・各教育委員の活動状況 ・保護者、住民に対する情報の公開や施策の説明状況 ・危機管理への対応 ・教育委員の選任の状況（平均年齢、職種、保護者の状況など）
- 2 [信頼に応える教育の取組]
  - ・教員評価や学校評価制度の実施状況 ・学校選択制の実施状況 ・教員の研修実績 ・分限、懲戒制度の運用状況
- 3 [学力向上への取組]
  - ・各学校の学力向上に向けた取組に対する支援の状況 ・学力困難校への支援状況（匿名性に配慮して） ・域内の学校の学力の経年変化
- 4 [学校の規律や安全向上への取組]
  - ・いじめ、校内暴力、不登校などへの取組状況 ・各学校のいじめ、校内暴力、不登校などの件数の経年変化
- 5 [特別支援教育や多様な教育に対する取組]
  - ・社会人教員の登用・特別免許状の付与の状況・特別支援教育の取組
- 6 [教育行政上の特色]
  - ・地域の特性を生かした特色ある教育行政の実施状況 ・スポーツ、文化施設等の首長部局等への移管状況

○指導いただいた学識経験者名 (敬称略)

職 名	氏 名	備 考
元長岡市立北中学校長	山崎 十五郎	柏崎市在住

○町教育委員会関係者名簿

—教育委員—

(敬称略)

職 名	氏 名	備 考
委員長	木川 勇三	
委員 (職務代理者)	村越 隆夫	
委員	内山 才子	
委員	棚橋 正吾	平成 21 年 10 月 17 日から
教育長	佐藤 亨	

—職員名簿—

職 名	氏 名	備 考
教育課長	田中 秀和	
庶務学校教育係長	棚橋 孝子	
社会教育係長	辰口 芳子	
教育課主事	若山 和義	
教育課主事	磯田 勇人	
教育課主事	帆苅 純一	
事務職員	山後 美智子	
事務職員	山田 広行	
用務員	小林 秋子	